



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク

会報第35号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2008年4月1日号, No. 35

第35号の目次

- 1、2007年度総会報告
(2008. 2. 3) …太田 隆行
- 2、オーストラリアツーリングレポート
(2007.夏) …池田 喜由
- 3、お「に」が「わ」ら「沖繩紀行」
(2008. 冬) …中島 信義
- 5、編集後記

2008年度	代表	矢代 幸雄
	副代表	伊藤 和博
	同上	後藤 猛
	同上	沢田 健介
	同上	永野 靖彦
	同上	夏賀 英樹
	同上	原田 裕史
	事務局長	手塚 則生
	会計監査	梶 エミ子
	同上	山田 泰

2007年度総会報告

2008.2.3

太田隆行



去る2月3日(日)神奈川RB2007年度総会が行われました。今回で節目の10回という総会は神奈川にしては珍しい大雪の中、20名強の出席者が集まり開催されました。

悪天候で交通機関の不具合で来られなかったメンバーが居られたのは残念ですが来賓に千葉RBの丸山代表を迎え、今年の活動方針等、熱い議論が交わされました。

来賓・千葉RB丸山代表↓



活動方針の骨子は従来行ってきた「走行訓練」「ツーリング」「無線通信訓練」など主催行事に加え、「8都府県合同防災訓練」「津久井赤十字病院防災訓練」などに参加すること、更には他団体主催行事の支援などを行っ

ていくことになりました。

また、新役員として以下のメンバーが推薦され、満場一致で承認されました。

2007年度に引き続き代表を務めることになりました矢代代表より下記のコメントが寄せられました。

「神奈川RBが1997年に設立準備を始め、活動を開始してから10年が経ちました。設立時から活動してきたメンバーは、残念ながらだいぶ少なくなってしまいましたが先人の方々の苦勞があったの現在であります。改めて敬意を表するとともに我々も歩みを止めてはなりません。その熱い思いは我々が引き継いでいきます。バイクをきっかけに集まったメンバーではありますが災害救援の支援活動はバイクが役に立つ事ばかりではありません、むしろバイクが役に立つ現場の方が少ないのが現実です。現地での活動ではバイクを降り、あるメンバーはスコップに持ち替えあるメンバーは障子貼りの刷毛に持ち替えたり各地で様々な活動を柔軟に行ってきました。近年の状況では各防災団体にも少しずつではありますが神奈川RBも認知されて来ています。



神奈川RBの活動は人類の生活が続く限りここで辞めにしてもいいと言う事は絶対にありません。先に記しましたがメンバ

ーがやむを得ずとは言え去る事はさびしいですが時代の流れとして当然のことと受け止める必要もあるかと思えます。数十年後、私が引退した更にその10年後にも神奈川RBが社会に貢献する団体として存在する事を切に願います。そのためにも現在我々が行っていく

ことは各メンバーの熱き思いによりこの会を継続していく事にある
ことは明確であります。」

総会後は恒例の懇親会が行われ、それぞれの思いの丈を語り合いました。

オーストラリアグレートオーシャンロード ツーリングレポート

2007年

池田 喜由

オーストラリアの南海岸に沿って走る道は、グレート・オーシャン・ロードと呼ばれる。幸運にもこの道をオートバイで走る機会を得た。その時のツーリング・レポートをしてみたい。

メルボルンにはバイクのレンタル屋がある。バイクのレンタルはやはりマイナーだ。車に比べ随分と割高感がある。1500CCのカワサキ・バルカンが1日125豪ドル(当時の交換レートで約1万円)もする。しかし減多とない機会である、迷わず借りた。



レンタル・バイク：カワサキ・バルカン1500cc、オージー(豪州人)バイカー：夏場でも装備は完璧だ

かねてからもくろんでいた南氷洋の荒波が押し寄せる Great Ocean Road を走ってみよう。3月と言えば、オーストラリアでは秋だ。メルボルンのアパートを出て高速M1を南に向けて走る。暫く走ると、あたりはようやく明るくなって来る。Geelongの観光案内所前に到着。その前のマックの駐車場に大型バイクが6台止まっている。マックから中年のライダーカップル、シングルが出てきた。彼ら(彼女ら)は上下皮のライダー・スーツに身を包んで、夏でも完全装備だ。なかなか渋い。

Geelongからは、いよいよ Great Ocean Road だ。しかし未だ内陸部を真っ直ぐ南に下る。道の両側、或いは片側にサイクリング・レーンが路肩に平行している。ハイウエーに白線で仕切られただけのサイクリング・レーンがあるのはさすがにオーストラリアだ。カンガルーに注意の標識も出てきた。やっと海が見えてきた。標識が100kmから80kmになる更に60km。町が近づくサインだ。Great Ocean Road が海沿いに出る Torquay の町に入ったらしい。町の入り口は必ずスピードダウンの標識が有り、こちらのドライバーは概して規則を良く守る。この辺りはメルボルン周辺より植生が深く緑濃い森に地表が覆われている。地表が森や林で覆われていると、心が落ち着き和んでくる。

Anglesea 着。目抜き通りさえ無い小さな街だ。街の広場で休憩。南氷洋の荒波が押し寄せる。Great Ocean Road らしい道になってきた。Great Ocean Road と書かれた大型の木製アーチが道路に掛かっている。大型トラックでもくくれるように、かなり大型な造りだ。こちらのトラックは兎に角でかくて長い。隣に並ぶと軍艦と手漕ぎボートの差を感じる。16輪等ざらで、36輪とかロード・トレインと呼ばれる長いのも走る。街を抜けると、標識の速度制限は直ぐ100kmになる。だがこのあたりの道は、100kmで走れるものなら走って見ろ、と言わんばかりのワインディングとアップダウンの多い道だ。気合を入れて、ワインディングを楽しんでいるバイカーもいる。彼等は、腕も装備も特上に見える。途中カンガルーの死骸と衝突した車が故障して道端に止められてあった。昼間は先ずカンガルーと衝突することは無いが、夜は要注意だ。カンガルーは車の光に飛び込んでくる。

南氷洋の荒波が砕けて波長の長い白波が幾重にも重なって押し寄せている雄大な渚が眼下に、眼前に広がる。時に南風は90m/sにもなり、波の高さは30mにもなると言う。断崖の間の僅かの平地に開けた保養地 Lorne 着。湘南バイパスの国府津PAよろしく、バイクが30-40台、通りの歩道沿いに止まっている。



グレート・オーシャン・ロード看板 カンガルー注意標識

Apollo Bay 着。弓なりの白い砂浜が松並木越しに広がる。Jeelong のマックで見かけた大型バイク組6台が、やはり同じパーキングに飛び込んできた。あまり格好良いので写真を取らせて貰った。早くピースサインをしてくれる。ナンバーを見たらシドニーが州都の NSW (New South Wales) からきている。相当のロングツーリング組だ。

ここからは山超え。Otway National Park の原生林の中を走る。海岸沿いはアップダウン、ワインディングがきつかったが、内陸に入ると山間でもゆったりしたワインディングの上り下りになる。平均速度80kmで楽に走行できる。前半はずっと上り。箱根の山程ではないが、かなり高い山並が連なる。植生も豊で、トラックの背丈程もあろうシダ、30mを越すユーカリ、松、ブナ等の高木の森がハイウエーの両脇を囲む。そんな豊かな森の所々が、何の為か、完全に樹木が切り倒され無残な地表を表している。単なる森林資源の収穫で、その後何十年か掛けて元の森林を養生するのであれば良いが、今、森は地球の貴重な資源だと思う。

乾燥した荒地が多いなか、せめて現存する豊かな森は残してやりたいと切に思う。山肌一面に切り倒された場所を見ると、自分の内臓を切り裂かれたような痛みを感じる気がする。



Cape Cove: 南氷洋の荒波が豪快に砕ける

切り立った岩場では、波は岸边で直接砕ける。そんな場面を眼下に見られるポイントが幾つかある。Cape Cove もそんな場所の一つ。断崖の上から見る、波長が長く波高が高い大きなうねりが砕ける様は Great Ocean Road のトレード・マークと言えるだろう。

Lavers Hill Junction 着。右に折れると遥か内陸部を走るメルボルンから繋がっている Prince High Way A1 に繋がる。A1 は交差点有りのハイウエーだ。交差点が有ると言っても、数10km毎にある街に1ヶ所か2ヶ所所有のだけであるが。左に折れて、海沿いの B100 号線 Great Ocean Road を走り続ける。Moonlight Head と言う名前に魅せられて、ダートを標識に従って向かってみたが行止まり。つい、すけべ心が出てしまった。



Twelve Apostles (12使徒)

Great Ocean Road 最大の見所 The Twelve Apostles が見えてきた。花崗岩の台地が南氷洋の荒波に削られた垂直の断崖と、奇岩の立ち並ぶ海岸の始まりの地点である。大規模な Visitor Center が建設中だ。パーキングだけは既に完成している。松島のような静けさは全くない。荒々しい波に晒され続ける花崗岩の奇岩が、絶壁の前に立ち並ぶ。絶壁の下は砂浜になっている。垂直の50m位の絶壁に張り付くように設置された、ボード・ウォークでビーチ迄下って行ける。

Port Campbell 着。小さな入江に辺張り付いた真珠のような街。B110 号線は、台地を比較的まっすぐ走るが、この辺りで突然ヘア・ピンを下る。下り切ると200m位の直線。これが街の全てだ。こじんまりしているが、必要な設備は整っている。観光案内所、ガス・スタンド、狭いビーチ。ビーチには、ゴールド・コーストでお馴染みの黄色と赤がトレ

ード・マークのライフ・セーバーがちゃんという。モーター付きのゴムボート、手漕ぎの木製ボートにサーフ・ボード、七つ道具は揃っている。大型観光バスが入っても大丈夫な程度のカフェ、ミルク・スタンド、みやげ物屋。その Milk Stand の一つに入る。Spiral Pasta とカプチーノを注文 A\$ 14.50。ページャーを渡される。パスタが出来上がったら、ページャーで呼び出してくれるシステムらしい。ページャーが鳴った。カウンターへ行って料理を受け取る。どんぶりに入ったパスタだ。味はオリーブがたっぷり入った地中海風で旨い。



ハイウエーに設けられたサイクル・トラック

Warrnambool への途中で Great Ocean Road B110 号線は終わり、内陸部を走ってきた A1 に繋がる。A1 が海に出た地点から Portland 迄の海岸は Ship Wreckage Road (難破船街道) と呼ばれる。その昔帆船時代、多くの船がこの辺りで難破しているのだそうだ。Warrnambool の観光案内所で休憩。牧場が多くなり、Give Way To Live Stock (家畜優先) のサインが所々に目立つ。Portland の少し前で、A1 からやはり海岸線走る A200 号線 (Henty High Way) に入る。

Portland 着。メルボルンから 450km。今日予定の終着地だ。観光案内所でひどく暇そうな、かわいいおねーさんにホテルの場所を尋ねる。ホテルの場所を聞いたのに、彼女はたっぷりの営業スマイルで、街の歴史的な建物や見所を立て続けに説明してくれる。彼女の説明は、あまり良く判らない部分も有ったが、聞き返すのも面倒なのでふんふんと判ったそぶり。どうせ、明朝は早い時間に町を出る予定だ、観光等する計画も余裕もない。ホテルは 観光案内所から目と鼻の場所にあった。ついでに、Portland の案内書やローカルの地図をくれた。これは後々の為に取っておこう。Richmond Henty Motel にチェックイン B&B で 97.9 豪ドル。Portland は大きなアルミニウム工場がメイン産業の街だ。その為の積出港には大型貨物船が入港している。オーストラリアの海に面した街は、何処もヨットやクルーザーのハーバーがある。Portland も例に漏れず、広い芝生が広がるハーバーにプレジャー・ポートとその牽引トレーラーがひしめき合っている。明日の朝食をフロントに頼み、通りを一回り。夕食に「Chicken Takeout」で Quarter Chicken & Chips を買った 6.7 豪ドル。

冬場でもしっかり着込めば、このコースはバイクで十分走れるコースだ。冬場の平均気温は17度と案内書にある。南氷洋の荒波は冬場の方が迫力有りそう。南オーストラリアのブッシュと海岸を楽しむ見所万点コース。宿は、Portland の中心、ホテル設備も整ったモーテル。古いが煉瓦造りで港と湾を見下ろす場所。ピストロも有り、本格的な食事もできる。ホテルはシャワーのみだが、比較的乾燥した土地であり十分と言え

私が行った3月末。

17歳から30歳くらいまでの若い方々が祖国を守るために死んでいったこの土地は春の陽光を浴び、桜も花開き、すこぶる明るい世界になっていました。

しかしながら記念館に収められた遺筆、遺書、手紙などを読んでもその明るさは一変します。とはいえ暗い気持ちになるわけではありません。

もちろん涙は留まるを知らず。嗚咽さえ発してしまいそうな記録が充満しているのですが、むしろ感ずることは当時の若い方々の強い意志、純粋な気持ちであり、その無垢な心、潔さに心を打たれます。

「祖国とは、親であり、子であり、兄弟であり、恋人であり。そういった人々が一日でも長く生きていられるように、また生きながらえるようにとの思いで飛び立っていった。」との一節をお聞きました。

当時の方々の心情は、精神的に墮落した今の私たちには到底理解し得ないでしょう。またそれだけの覚悟は持てないでしょう。

今の私たちには物質的な豊かさはありますが精神的なものは薄ら寒いような感覚を覚えます。

話は違いますが私の住む東北の地は寒い中でも寒さを楽しむイベントが多々ありました。雪祭り有り、かまくら有り。冬には冬の楽しみ方があります。それが豊かな季節感を生むということを感じた次第です。

東北の雪祭りを鼻水を流しながら楽しんでみたり、今回の池田さんのツーリングレポートを読んでみると豊かさとは何だろうかと考えさせられてしまいます。

高騰した原油をふんだんに使い何処に行っても暖かい日本。

不況といいながらあふれかえる物品。

こんなものに頼らない豊かさを感じられる人間になりたいものです。

(お)



神奈川IRB事務局

代表: 矢代幸雄、事務局長: 手塚則生

郵送先: 〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax: 045-312-1862 (取次ぎ: レターケース No.81 宛て)

URL: <http://www.kanagawarb.org/>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川IRB会報担当 太田隆行



神奈川IRB会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなで行きましょう！



関西風・広島風 お好み焼き おに「が」わら

店主: 中島信義 山梨県北杜市大泉村 Tel:0551-38-4030

JR小海線甲斐大泉駅北約 1.5km・ダイヤモンドハケ岳ホテル前

営業日・時間 11:30~14:30、17:30~20:00(火・水・木定休)

※念の為営業を確認の上お出かけください。

<http://www.010.upp.so-net.ne.jp/onigawara/index.htm>